和歌の友

宗長歌注

伊地知文庫
文庫20
309

文庫20
309

横堀文庫

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

吹風のそよぐにつけてもまれなる松はれ
すくなくなる事をさとりてくれを恨らむ道
々をこゝろとゝ只夕の宮そゝ夕ゝりしと日る
なりをしてしさをひ　さ云ひ乃ひ乃文み
毎日の日のへうてやまを風ふうてゝ
我ゝ恋ゝ道の村萩うゝれて人とも為を秋の夕言
月萩のうゝ八月の末ゝ之ゝ月節人
あゝ恋よ泊ゝ之ゝ我ゝ分ゝ為ゝ
為命ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ
ゝ只ゝ為ゝ恋ゝ入ゝ為ゝ
星ゝ為ゝ見ゝ為ゝ為ゝ恨ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ
ゝ為ゝ星ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

誰[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ひはこうしを白くしこ二条ふうの事と宗長は
あるやその秋山とはかしの事くさ〻葉て花
さくねとくさ〻はつ〻はけかう浦物く
ぬるの袖をさしぬるやゆゆしうの星の秋の初風
はこ弁ケ崎つ〻たく〻佐人の白き秋
乃面白事ことの乃吉和るるるやうやされこて
の物乃眺望の拾玉抄乃詠ぬして長柳し
しうこを用めうしく〻り只佐人の秋乃
眺望やくや紅葉泳ゆうしうや
ふれうる野辺世の茅のはけうるのく涼しくてうるの
くさ〻をつうとい夜茅の日新しきのれ
やその茅りこの海りく量て日のけし

うるくあくいふくうる野辺の眺望
やうけうのて白の事やはなつては
世のうるるやくりうる面白根
や野りせとい北のせうきまく茅乃ちけ
き事といちんくうる返りせと同之
いうの中の青のりりのく中の風の星よう音が
しうの乃えとい伊勢物語と我うもしうこの
海とのくくとうるうるいうの中の事くち
附乃眺望しうの拾玉抄くれいうりしうるる
乃拾玉抄てて云沼乃面白さ
熟なくか雅ふ事を尚うるるるるくくと秋風そく
はこ弁ケ崎乃橋乃ちうきさう宗

氣色こそことなれのつきせぬ秋風乃
そらにくゆくひしこそひろ極やぎりみち
ちもしてこ地をもろ物やぎ
我の心いとせらるる郭公乃の月の新ぶらん
四月十三日乃月ぶたくひろく西日物と深更
ようをひく徐乃ろ時ろ郭公乃一声を伝
いろ俗抵更ふたへてこ風京なれい世郭公
を我の心をいろ聲ぶ
郭公を郭公乃旅まてのくろひ声を聞れ
世をその郭公とろ
いろふまをふ事あれい旅枕といろ兼信は
しくやのしをを郭公のうろをあり

四月朔日ろ抵あるれ侍りそのうをとは青
苔まてそのうをふとひろみろぶ姑蘇ろ
まを郭公い旅館とろいや
あまをろ間をれのかろ濃れ侍の名ろ蘇
ろ
ろ
ろ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

わすれんと思ひてうつきて花の後はかしてうつ
きてうゑおくもの花のこゝろはかはりてうつ
ゝの花とうつりゆくこゝろなり
年のかはるこゝろ世の人のさかしへくいとなみとなり
ぬるを西行はかなくうつりゆくこゝろあ
はれにもうつりゆくこゝろをもうつ
さしへくうつりゆくこゝろ
ともとゝまるこゝろもなきことをいふ
てはかりとゝまるこゝろ
ちからもなくうつりゆくこゝろ
てはかりのことをいふ
まにすとゝのへてうつりゆくこゝろ

春は物やあはれとさはいふとも
秋ほどはあはれまさらぬ
あつるいろかなるはかりの
あつまりうつるやうにさはれ
あつまりうつるやうにさはれ
ゝ春のもの
さは
秋
物
柳
花
山
月
人
雪
春
秋
月
人
山
月
人
雪
月
人
雪
月
人
雪

此ものゝ人に成れはこの世のうつりかはりを
さまざまにくさぐさそさ[illegible]ものゝ[illegible]
こゝかしこにうゑをきたるよりそのうへのうつ
ろはしかたのつくりかたのようすもそのそ
のかたちのかはりかたのようすもそのそ
のかたちのかはりかたのようすもそのそ
のかたちのかは

夕陽孤鶴を、いとなつかしく面白れば秋なる
波かな秋の夕暮の色いとあはれなるに
京なるこの頃の秋の夜とは此の夜の又之程
のもとなく移り行くまゝに情しみなく新渡し
家の家柱のおもき俗世もとゝ
れば松のおもとゝ同のこゝろ事くせ合の
教よりもとゝ物だたしかれくいとゝ
なれば落ちの教をむしとめるゝ松のおも
あるもこゝとゝ高しあれとおもしまを
なれいとくいとゝ名をこの意とゝ思ひ
風なれば葉乃そらとひあをてゝいとらん
なれとゝ風のそらくとゝもきうんのあを

京うまさこのるゝそれは乃家風みあ
とゝいとゝ合くゝろくゝちりもらんとゝかゝ
しきものや
我意にあつとゝ頃なるそこ山出とゝ和市孔浮雲
無意に行雲もこゝ行雲とゝ早秋
如市市の物意にいつとゝ早秋
あつるとかゝしこゝとゝ
けば如市のこゝ中なり
意こゝりて命ゝなのこゝ中
思ふんさんこゝやつこゝ
と待んありれゝ
ゝ市のこゝ
ゝ市のこゝ
ゝ市のこゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

しうくまのゆきのうちとけてこのれしたるれ
初かりとて
青柳の糸ゆ乃宮ゆ
ゆ寺のはるのきさらぎ
しとつけてみるうり初をこ
文屋とうけきてそ昔とおもてうきれし
なをゆくホいのはくれしをねとおもこ元
の月は文屋のうの鶯の声く
秋宮となのしかれの月しいるもしてさ
ゆ京の寺こゆ春宮のうとうり
秋そつくの春の月の文と独宮とせ秋
日振とうけりとゆ物のみきもる

中くたなつのホのえるすくおりたてそのの
けるうの又ゆ只おのうけそりうゆそれと同
ゆとそとはくいとひそめるおそ
ゆ花の奥ゆゆくゆ清水寺とこ寺ゆ
宮ゆ生のうゆ生ゆ生くれ入おむの清ゆ花ちうの
能因ゆ寺大ゆつゆ山宮の花の滝
樣乃ゆ花の枝さし入ゆ清のうきな
ちゆ見ゆ見之寺の花そさて山宮の
生のうゆ生ゆとゆ寺の日文ゆいも花ゆ
ゆの日さうれ文ゆ何ゆも何ゆのてき
花ゆうとなれゆ山宮乃生のう春花
くうゆうゆ風京ゆ見ゆ別ゆいくゆ一京

[illegible]

奇特分利

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世平にこの[illegible]

[illegible]

やこの[illegible]人の[illegible]

[illegible]

[illegible]

乃ちのゝ山たちいたくすり
蓮ちのをいかゝ人ゝ思ふ中ふかへたち
人ゝ道の根をいたゝいて立ちとゞでのの
事ゆゑ引とゞまりてもゝ我をもり
をいのこゝろくるしくさそ物ゝ思ち
ゝ物思ふくゝめとそ
ゝ物思ふこゝろのりゝ物何舟まりはせゝ
ゝとゝさゝのりゝとゝ人へさゝ命ゝのゝ事へ
物何舟のゝ物ちの浦ゝとゝのりゝとみくゝを
ゝゝりゝんゝとゝ
事の事ゝとゝ
浦世ゝゝゝ

文武帝の時ゝ子のゝ
はいゝゝ時ゝゝ
何のゝゝ
ゝゝ
自行ゝゝ

六月ゝ
月水ゝ月の
紀ゝゝゝ
ゝゝゝ
源氏の
郭ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
や君の御陰ようくまてくい何のそなもの
うけまてとし春面い面白りれわ和わてき
べ本陰い面ととくすれと思のきの
子をとまようとしてと申
あそ川野のとろの蔵氏のこわ名を三ゐ弟そ
世とく海の蔵名くの伊われも性平の蔵
のとろのをして里へき申くその日本
つとけのこしれわ弟の心をしる三ゐ
しとゐ立ち海ゐ川野あふゐの道
花の陰を海あきと春ぶ沖とうをて
恋のあとちりくとみくくちあとたゐく

あしきとゐ花の陰をうゐくゐ面白沖
のえんとたまりしきとゐ
ゐきてゐとををけみゐ陰ゐけの記山田乳も
世平む大事のゐ面白ゐ世ゐ
面白ゐ田ゐ田ゐ世ゐとゐ世ゐ
ゐ新ゐを世ゐ面白みゐゐりゐけ
ゐきとゐふゐきゐ田の事いそのきとゐ
き申き原氏ゐいそのとゐ海ゐ
沖新ともゐわゐゐき新の事毎
世平のゐゐて沖ゐ海ゐとそみ新
あきくゐ面白ゐゐけゐゐしとそ
佛ゐゐ樣の花とゐゐゐのせとゐ思ゐゐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八重葎寺也る宿のさびしさ人とそみしら秋分り
見しとも[illegible]乃寺も荒[illegible]
秋[illegible]
いとゝしらや見せ[illegible]
夏虫の[illegible]
[illegible]
[illegible]

女郎花野辺の古郷ゝ
野ゝ乃女郎花と遠ゝ稲
ゝ

[illegible]
せんとてまうでゝ　指南のひとびとをこゝ
はらうとて[illegible]
[illegible]
小野山の麓やきのこまぜうつむてすこ
と焼ちらくさしくなれて世間とうん[illegible]
ふんのあつれなるまやあつてそれこうあ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
昔の[illegible]
[illegible]風[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
と日数の半ばを経て[illegible]
今のいておりく日数をへる事を歎く
あるひとうけたる
[illegible]
[illegible]
我[illegible]
[illegible]
[illegible]

晩秋

小倉山秋のおくまやおもふらん
心々に鹿ぞ鳴くなる秋乃月
紅葉ふかき山ぢ
廉子
秋乃月
いかんとかはしたもの
王子歌
歌枕772
秋のあはれ
とかはしたもの
歌枕
歌枕773
高乃山
萩の花
歌枕
月
歌枕
月
月
月
月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

37